

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201380		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル友明かり		
所在地	一宮市北方町曾根字村裏西15番地		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372201380-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき！」と思える家作りがわがグループホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいはみんなと力を合わせることで、生活を送ることができるはず、と模索している。たとえ、認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割作りに着目しながら生活している。日々の活動では天気の良い日は散歩に出かけ、認知症があっても普通に生活している様子を知らせるのがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみにすること、外出や外食も積極的に行っている。夏祭りや運動会もチアフル全体の行事として地域も巻き込み行っている。又、児童館の子供たちと七夕会やXmas会で定期的に交流を持ち、昔遊びの道具を作っては子供たちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が子供たちの前で腕前を披露する顔が得

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能事業所と併設して開設されていることで、合同の行事等の開催を通じた、利用者間の交流の機会がつけられている。小規模多機能を利用していた方が、日常生活環境に慣れてからグループホームへの入居が行われていることで、利用者にとっては、円滑に生活場所の移行が可能である。1ユニットのホームでもあるため、日常的に職員間で意見交換を交わしながら、一人ひとりの思いや意向に合わせた支援に取り組んでいる。家族との良好な関係をつくるために、関連ホームとの合同の運動会の行事が行われており、家族間で交流しながら、ホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。法人で共通の理念を掲げ、職員間で唱和しながら、理念にある利用者へのより良い生活の実現を目指すために、介護計画の内容の検討には、職員全員で実施する取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニットの出入り口・スタッフルームにて提示。「生きるってすてき」と思ってもらえる様に自分らしく楽しい生活を送って頂ける様職員で共有し支援にも努め又勉強会にて学ぶ機会もある。	法人の基本理念をホームの支援の基本としており、具体的な項目と合わせて職員間で唱和を行うことで、理念の内容の共有と実践に取り組んでいる。また、ホーム便りにも理念を記載しており、家族にもホームの方針を知ってもらい取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の散歩・買い物時は地域の方々との挨拶は出来るだけ行うように努め又地域推進会議・チャフル祭り・行事など参加して頂ける様に交流を深めている。	地域の方とは関連の事業所とも連携しながら交流の機会をつくり、行事の際には地域の方の参加が得られている。また、小規模多機能事業所を併設していることで、地域の方との関係を深める取り組みも行われている。	ホームでは、関連事業所とも連携しながらサロンの案内を行っているが、地域の方への浸透がテーマにもなっている。ホームの継続した取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの誘いがあり文化祭・敬老の日・七夕・クリスマス会など参加し支援を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の推進会議を行い、ホームでの生活様子などを伝え、地域の方々の情報交換に努めアドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	会議の際には、現状を書面にまとめて報告しており、出席者にホームへの理解を深めてもらっている。関連事業所との合同の行事を見てもらう機会をつくることで、ホームの取り組みを知ってもらい機会にもつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市での勉強会・講習には出来るだけ参加させて頂き分からない時は相談の電話を自分達や・管理者等に尋ね問題解決に努めている。	市内の介護事業所との連絡会、研修会等の際には、関連事業所とも連携しながら参加するようにしている。また、地域包括支援センターともホーム及び併設の居宅介護支援事業所を通じた情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で学びやむ得ない拘束を学び理解しているが出来るだけ拘束はしない様に努めているも仕方ない時は管理者・家族様に相談をし了解をいただいている。	身体拘束を行わない方針のもと、職員をクラス分けした研修会を実施し、職員の意識向上を高める取り組みが行われている。なお、ホームが建物2階に開設されていることで、出入り口は施錠されているが、状況に合わせた外出等の対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部勉強会・講習にて学びながらコミュニケーションに努め、帰所後(自宅・外出)には外傷がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	使用されている方が見えるのかわからない、もし勉強する機会があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族様・関係者の方々に十分説明し分らない所を尋ね納得頂ける様に取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会・面会時など意見・要望・提案など話し合いの場を設け前向きに取り組んでいる。	関連事業所と連携した合同の交流会の取り組みが行われており、家族との意見交換が行われている。家族からの要望等については、リーダーをはじめ、複数の職員で対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	悩みがあればリーダーに相談したり、個人面談が年2回ありその時に管理者が職員の意見を聞く場を設け反映に努めている。	1ユニットのホームである利点を活かしながら、日常的にリーダーを中心に職員間で意見交換を実施しており、必要に合わせて法人代表者でもある管理者に報告されている。また、個別面談の取り組みも行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	目標設定・OJTシートを活用しながら半年に1回面談が行われ個々に働きやすい職場環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外分研修・勉強会に行く機会があり技術・知識を身につけられる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修などに参加した際には交流に努めているも親密な交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時のアセスメント情報を各職員が把握・共有し常に表情・状態を見ながらコミュニケーションを取り不安・要望に沿える様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	その方が今何を悩んでいるか、不安はないか会話の中から理解して要望に副えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在必要な事を考え途中家族様との話し合いの場を持ち安心して生活して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として教わりながらその方の力量にあった生活支援を職員と一緒に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会時に日々の生活・身体状況などの現状報告を行い信頼関係が築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様が携帯電話を使用し日頃から連絡を取ったり、知人・友人の方が気楽に着て頂き楽しい時間を過ごしてもらえる様に努めている。	入居前からの友人、知人との交流、行きつけの喫茶店への外出等、利用者の馴染みの関係継続の取り組みが行われている。また、家族との外出の機会もつくられており、食事や買い物をはじめ、親族の墓参り等を通じて、家族と過ごす機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人助け合いながら孤立しない様に努め、自分で出来ない時は他の職員を呼び助けを求めカバーし合い協力するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設外の場所にて退所された家族様に会った時には挨拶を行い、退所された方の様子・家族様の様子などを話したり近くに来られた時施設に立ち寄って頂ける様に声をかける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ミーティング時に個々の意向・思いを検討しその要望に沿える様に努め困難な時は家族様と相談し支援できるように努めている。	職員間で担当者を決める取り組みが行われており、日常的に職員間で利用者に関する意向等の把握が行われている。また、定期的なカンファレンスの機会がつけられており、検討された内容等は、計画作成担当者による細かなアセスメントにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様のアセスメントシート・面接利用者表等の情報から把握したり、また利用者様本人から情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェック・身体状態を行い記録に残し日中の自室での生活の中でも身体状況にも注意・見守りをしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い半年に1回ケアプランを作成しその時には必ずご家族様・本人の意見を聞きケアプラン取り入れたり、変化に応じてケアプランを作成している。	介護計画は6か月での見直しが行われているが、変化等に合わせた見直しも行われている。毎月のカンファレンスを通じたモニタリングが実施されており、細かな変化の把握が行われている。また、日常的にも支援内容をチェックする取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り・ミーティングなどにて職員同士情報を共有しながら話合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	随時家族様に状況・状態を伝え・相談しその時にあったサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2ヶ月毎に移動美容院に来て頂いたり月によって習字・手芸・コーラスの先生方々が見え利用者様の力が発揮出来、楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様のかかりつけの病院があれば大切にし受診して頂いてなければホームの医師を紹介し了解を経て受診して頂いている。	協力医による定期的な訪問診療が行われており、利用者の身体状態に合わせた職員による受診支援も行われている。また、関連事業所の管理者が看護師でもあるため、利用者に合わせて医療面での支援や職員への指導等の対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回看護の日があり診て頂いたり、変化があればその都度連絡し指示・受診を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ面会に伺い身体のケアに努め、退院時には必ず注意点を尋ね状態の変化があればすぐ対応が出来る関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様の状態を見て家族様・ホームDr・看護師などと相談しながらその方にとって一番良い方法を考えながら取り組んでいる。	利用者の看取りを見据えた支援も想定しており、当ホームでも協力医と連携を深めながら、利用者の看取り支援が行われている。また、法人でターミナルに関する研修会の取り組みが行われており、職員への指導、サポート等の取り組み行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会に参加しているので以前より多少だが応急手当・初期対応が身につけているのではないかと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練は行っているが、実際に発生したら戸惑うのではないのか、できるだけ練習を行いながら戸惑わない様に身につけるように努め、備品のチェックも怠らない様に努める。	避難訓練については、ユニット毎での実施となっているが、当ホームでは、建物1階の小規模多機能事業所との合同の訓練も実施している。地域の方の参加も得られており、協力関係の構築に取り組んでいる。また、ホーム内に備蓄品の確保も行われている。	当ホームは、関連事業所とは異なり、建物2階に開設されている。その利点を活かした水害時における対応をはじめ、非常災害に関するホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人尊重しプライドを傷つけない様声かけをに努めその方にあった声かけ・対応に努めている。	法人の基本理念に利用者の尊重を掲げており、職員間で理念の唱和を行うことで、利用者への言葉遣い等の対応を振り返る取り組みが行われている。また、接遇面に関する定期的な研修会を実施しており、職員への指導等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活で表情・会話の中で読み取り、自己決定が行えるように信頼関係に努め希望・自己決定が出来る様心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の好きな事を自分のペースにて有意義に過ごして頂いたり、行事では無理せず参加して頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒にショッピングに行き好きな服などを選んで頂いたり、選べない方にはアドバイスを行う様に努め汚れた衣類などは声掛けを行いいつも綺麗な服を着て生活できるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを尋ねメニューに取り入れ、食事作りもその方の能力を把握し一緒に行って頂ける様に努め、彩り食べやすい大きさなどにも注意し会話をしながら楽しく食事が出来るように努めている。	メニューは、利用者の好みや嗜好等を確認しながら考えており、買い物や調理等、利用者も参加する取り組みが行われている。身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行う取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取表を毎日記載し、栄養が偏らない様にバランスを考えて提供したり、咀嚼が上手く出来ない方にはミキサー・刻みなどにて提供を行い水分補給にも気を使いながら支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアに努め、自分で上手く出来ない方は職員が横につき口の中を確認し再度口腔ケアを行い、口臭が気になる方には市販の物を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を記載し時間を見ながらトイレ誘導を行い、嫌がる利用者様には無理せず何回か時間を見て声をかけながら排泄の失敗・パターンを把握し自立に向けての支援に努めている。	利用者一人ひとりの排泄記録を残しており、職員間で日常的に情報交換を行いながら、その方に合わせた排泄支援が行われている。また、日常的にヨーグルトを提供する取り組みも行われており、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を確認し、食物繊維の多い食事を提供し、排泄が上手く出来ない方は薬・センナ茶など飲んで頂いたり、体操時にも腹のマッサージも行う様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	職員の都合で(行事・遠足など)入浴して頂いている日もあるが、それ以外は気の合った方とゆっくり入って頂ける様に努め入浴剤・ゆずなど季節の物を入れ入浴を楽しく入って頂ける様に努めている。	入浴は1日おきとなっているが、希望等に合わせた対応も可能である。浴槽については、複数の方が入ることができる大きさであるため、好きな方同士での入浴も想定している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時の状況に応じて自室で休んで頂いたり、ソファにて寛いで頂いたり、居室の温度調節にも気を配り本人が気持ちよく寝て頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬に対して理解が出来ているか分からないが、疑問に思った時は薬剤情報を見たり、本なども見たり、看護師に尋ね変化に対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中にて個々の能力が発揮出来る様に洗濯・調理・掃除・片づけなど手伝って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換に外食・喫茶店・買い物・ドライブなどの支援や要望に添えるよう努めているが無理な時は家族様に相談をし協力をお願いしている。	季節や天候等にも合わせながら、近隣の神社等まで散歩したり、買い物を通じた外出等の取り組みが行われている。また、関連事業所との合同の行事を通じた外出や季節に合わせた公園等への外出行事の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一緒に買い物に出かけ自分の財布の中から払って頂ける様に努めているが、時々理解出来ない時もあるので横につきアドバイスをし出来る様に努め理解できてない方は時々お金を用意して足し算などの計算をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設からの行事の招待状・暑中見舞いなど関する手紙などは自分で出来る方には書いて頂き、電話は本人の要望に沿える様に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ・居室にはわかりやすい様に紙や写真などを貼って目印にしたり、花・季節の物、自分の作品などを廊下・壁に置き居心地よく生活出来る様に努めている。	ホーム内はゆったりとした空間が確保されている他にも、建物の2階であるため、採光に優れ、見晴らしの良いリビングとなっている。また、通路にはベンチが設置されていることで、利用者が一人で過ごすことができる配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアー・廊下にて一人で過ごせる空間があり中の良い方との会話が楽しめる様にソファ・椅子も置いて生活して頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真・ペットの写真・手作りの作品、置物など置いたり、飾ったりして居心地よく生活出来る様に工夫をしている。	居室には、利用者の様々な物の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族との写真や自身の作品を飾っている方や利用者により仏壇を持ち込んでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の出来る事・出来ない事を把握し自立した生活が出来る様に支援に努め、戸惑っている時は様子を見ながら声かけを行っている。		